

Assumption



聖母被昇天學院 學院報

Kindergarten
Primary School
Junior & Senior High School



No.20

2014.1.31

幼稚園

みんなの心が一つになった 心温まるクリスマス会



クリスマス
12月4日・11日・14日

—赤ちゃんイエスさまへの
プレゼント—

12月は、イエス様のお誕生日。各学年が、クリスマス会と祈りの集いを行いました。



子どもたちは、「赤ちゃんイエスさまに、聖劇をプレゼントしよう!」と気持ちを一つにして、取り組みました。どの学年も、初めは自分のセリフがなかなか覚えられず、とまどっていました。毎日練習を積み重ね、本番は堂々と自分の役を演じることができました。

みんなががんばったクリスマス会、幼稚園生活の思い出の1ページになりました。

小学校

ご来場の皆様の前で最高のパフォーマンス 練習の成果をしっかりと発揮



学習発表会
11月23日(祝日)

みんな頑張り、さらさら
輝いた日でした

11月23日(祝日)学習発表会がありました。みんなこの日のために一生懸命練習を重ねました。多くのご家族が見に来て下さった中、子どもたちは精一杯演じたり歌ったりしました。みんな舞台の上でさらに輝いていました。

1年生はいろいろな国の音楽をテーマにした「イツツ・ア・スモール・ワールド」、2年生は「森の色を染めるのはだあれ?」という劇、3年生は「A Special Song」という英語劇を、4年生は「ないない宇宙人とロボット」という音楽劇を演じました。5年生は「躍動」というテーマでリズムに合わせて体育と合唱を、6年生は「合唱と合奏」を気持ちを込めて披露しました。この他にもハンドベルクラブ、コーラスクラブ、演劇クラブなども日頃の成果を見せられました。4年・5年・6年生の英語レシテーションコンテストの代表児童も、見事な発音で会場を魅了しました。

クリスマス礼拝
12月19日(木)

日本語と英語で歌った
クリスマスソング

今年度のクリスマスは、第一部のクリスマス礼拝と第一部のクリスマスの集いの二部制で行われました。

第一部の礼拝は、「クリスマスオラトリオ」で本当のクリスマスの意味を知り、世界で最初のクリスマスをお祝いしました。そして、聖歌隊の合唱やハンドベルクラブの演奏のあと、献金と実行カードをお捧げし、世界の平和のために祈りました。

第二部のクリスマスの集いは、ASA(児童会)の役員が企画したゲームで楽しんだあと、サンタクロースから手作りクッキーのプレゼントをいただき、その後クラスごとにクラスタイムでクリスマスの集いのしめくくりをしました。



中学校 高等学校

さまざまな行事を通して 一步、また一步、大きく成長



フランスにある聖母被昇天学院
ボルドー校より9名の高校生が来
日し、本校生徒宅にホームステイし
ました。滞在中は授業参加や華道・
茶道・書道などの体験をするスクー
ルデー、京都・広島・釜ヶ崎研修・狂言
体験など盛りだくさんのスケジュー
ルをこなしました。ホストシスター
を中心に在校生との交流の場が広
がりました。2014年度は本校生
がボルドー校を訪れる予定です。

フランスの友だちに
関西流の「おもてなし」

フランス・ボルドー校から
研修生来日
10月24日(木) から11月6日(水)

いのちを考える月

キリスト教では、11月は”死者のための月”とされています。故人に思いをはせるとともに、生き
ることの意義や、生命の尊さについて、考える機会を持ちました。



中学3年生は沖縄修学旅行に出
かけました。平和の礎では、戦没者の
方々に思いをはせながら、平和への
祈りを捧げました。また、沖縄の風
土・自然の豊かさに直に触れること
ができ、島の皆さんの温かさや学年
の絆の深さを改めて感じました。

沖縄で平和の
祈りを捧げる

中学3年生
沖縄修学旅行
11月13日(水) から15日(金)



沖縄出身のテノール歌手で、バプ
テスト教会の牧師でもある、新垣勉
さんをお招きし、第一体育館にて全
校人権学習会を行いました。『Try
to Be the Only One』をテー
マに、力強くそして温かい歌声で会
場中を包みこみ、命の大切さを心に
刻むコンサートとなりました。聖歌
隊との合唱「翼をください」は、ひと
きわ美しいハーモニーで、聴く人の
心を打ちました。

美しい歌声が体育館
いっぱい広がる

人権教育全校学習会
新垣 勉さんコンサート
11月26日(火)



台風30号の甚大な被害を受けた
フィリピン・レイテ島への支援のた
め、この夏にフィリピン研修旅行に
参加した生徒たちが、校内において
募金呼びかけました。皆さんのご
協力により5万2549円を集め
ることができました。チャリティデー
の収益の一部と合わせて、現地に
届けられる予定です。

温かい心も一緒に
フィリピンへ届け！

台風30号被災地
フィリピンへの募金活動



国際交流・外国語センター

～さらに強化される聖母被昇天学院の外国語(英語・フランス語)教育～

「世界に貢献する女性の育成」をめざして

個人留学や語学研修を 強力にアシスト

聖母被昇天学院では、創立当初より小学校1年から英語、高校1年からはフランス語を必修とするなど、外国語教育と国際理解教育に力を入れています。2013年度、こうした外国語教育をさらに進化させ、生きた語学力を身につけ、国際社会で貢献することを目的に、国際交流・外国語センター(通称:国際センター)が開設されて早10カ月。これまでのフランス、フィリピンのアサンプションファミリー姉妹校との国際交流に加え、日仏高等学校ネットワーク「コリプリ(COLIBRI)」に加盟しており、希望者はフラン



今年3月にニュージーランドへの留学を予定している中学3年の杉林智子さん

スやニュージーランドとの交換留学や、個人留学にもチャレンジできるようなサポートをしています。

特に個人の短期・長期留学には、今まで教員が個別に対応してきましたが、国際センターが情報提供や相談の窓口になり、オーダーメイド感覚でいていねいにアシストしています。その第一号となったのが、2014年3月から2週間、ニュージーランドに短期留学をする中学3年の杉林智子さん。3姉妹の末っ子で2人のお姉さん同様、小学校から本校に通っています。

「小学校時代から英語の授業が大好きで、5年生の時はレシテーションコンテストに出場し、いつか自分の言葉で考えを伝えたいと思うようになりました。目下、英検2級をめざして勉強中。留学を決めたのは高1のときに1年間ニュージーランドで勉強した一番上の姉の影響です。滞在中、何度も帰りたくないと言っていたので、私も高校に入ったら長期留学をしたいと思っています」

と話します。今回は、まず手始めに短期留学の時期や場所などの情報集めや斡旋業者など、センター長の穴吹将彦先生に何度も相談にのっていただいたそうです。

「まずネックになったのは、留学斡旋業者の信頼度です。大阪ユニスコ協会企画のニュージーランドツアーに決まりましたが、我々が何度も担当者と話し合い、現地のようなすやカリキュラムを照らし合わせながら、安全の確認をしました」(穴吹先生)

「母と一緒に初めて国際センターを訪れた際は、どこへ行くのか迷うほど資料の多さにびっくり。オークランドに決まっただけからは、家で英語が得意な祖母や姉に英会話の特訓をしてもらっています。現地で自分なりに日本文化を伝えるため、小学校時代から剣道をしているので竹刀を持っていき、腕前を披露したいと思っています」(杉林さん)

健康に気をつけて、実りある旅となるようお祈りしています。

世界に広がる Assumption

学院の母胎である「聖母被昇天修道会」は、世界34ヶ国に姉妹校、教育団体を広げ、約5万人が同じ理念のもとに学んでいます。

ヨーロッパ

- ・フランス(本部)
- ・ベルギー
- ・デンマーク
- ・スウェーデン
- ・イギリス
- ・イタリア
- ・スペイン

アフリカ

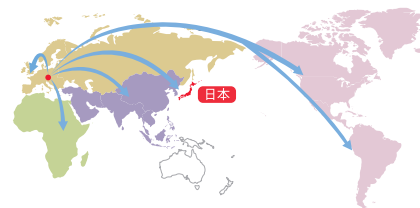
- ・リトアニア
- ・スコットランド
- ・コートジボアール
- ・ブルキナファソ
- ・ニジェール
- ・トーゴ
- ・ベナン

アメリカ

- ・メキシコ
- ・グアテマラ
- ・エル・サルヴァドル
- ・ニカラグア
- ・キューバ
- ・エクアドル
- ・ブラジル
- ・アルゼンチン
- ・チリ

アジア

- ・フィリピン
- ・インド
- ・タイ
- ・ベトナム
- ・日本





2013年度フィリピン研修旅行



2013年度フランス研修生来日

2014年度、小中高合同で ボストンへ語学研修旅行 計画中心！

個人留学の応援と共に、2014年度には同センターが希望者を対象に企画した、小中高合同のアメリカ研修旅行がいよいよ実現します。詳細について穴吹先生は次のように話します。

「夏休みに8泊10日の予定で、アメリカの広大な自然に囲まれたボストン郊外にあるアサンプシヨン・カレッジを訪問します。募集人数は最大30名程度で、ホームステイではなく寮でみんなと一緒に生活し、現地の大学生活を実体験するのが最大の特徴です。午前中はレベル分けされた英会話中心の授業を受け、午後からは、図書館やブックストア、カフェテリアなどに行ったり、プールなどの運動施設を利用して遊びの要素を盛り込んだアクティビティを中心に行います。ほとんどが安全な大学の敷地内で体験できるので小学生（5、6年）にとっても、一種のテーマパーク感覚で楽しめるかもしれません。元々、本校は縦のつながりが強く、中高生は小学生の面倒をしつかり見てくれると思います。小中高それぞれなる学習の動機付けになればいいですね。」

日本にいながら 国際感覚を身につける

校内外のスピーチコンテストや英語検定試験などの運営管理サポートを行っている国際センター。児童や生徒が安心して積極的な国際交流を体感し、日本にいながら国際感覚を身につける機会も提供しています。国際センターから発行される『News Letter』には、小学生から参加できる異文化交流情報も盛りだくさん。2013年11月には、外国人留学生に神戸や京都を案内する観光プログラムを紹介したところ、小学3年生から中学生まで多くの児童や生徒が参加し、京都で和菓子作りを体験しました。

「カタコトでも英語が通じた喜びは大きく、英語に対するコンプレックスやアレルギーを解消するきっかけになればと思います。外国や異文化に興味を持ち、行きたい国やそこでやりたいことなど、生徒たちからの提案や希望も大歓迎です」と穴吹先生。

先生も高3の時に1年間、アメリカ・テキサス州に留学しており、今なお旺盛なチャレンジ精神

はその頃に培われたものだから。とはいえ、留学直後は友達もおらず、部屋の壁に向かって1人で英語を話す練習の日々が続いたそうです。

「日常会話も早口でしゃべられるとほとんど聞き取れず、ずいぶん悩みましたが、あるとき相手の話に興味があることをアピールするため、相槌を打とうと思いました。センテンスの間に一言、二言、知っている単語を入れたり、最後の言葉をオウム返ししたりするだけでも何となく会話になりました。『なんでやねん？（Why?）』『ほんまかいな？（Really?）』と、大阪弁で言えば『ツッコミです（笑）』。すると話の内容もわかるようになりました」

穴吹先生の爆笑・留学体験記や裏話をもっと聞きたい、英語でツッコミを入れてみたいと思ったみなさん、いつでも気軽に国際センターへお越しください。



自身の経験を踏まえて海外留学を支援する、国際交流・外国語センター長の穴吹将彦先生

国際交流の思い出

児童や生徒が少しでも海外に目を向けるよう手助けをするのも国際センターの目的の一つ。現在、フランスとフィリピンの姉妹校との交流を目的とした2週間の研修が行われており、2014年度からはフランスの「コリブリ」という機関の「3週間の受け入れと派遣がセットになったプログラム」にも参加の予定。校内では海外から来た留学生に児童や生徒が狂言や茶道など、日本文化を伝える手伝いもしている。さらに放課後は、隣のLL教室を利用してリスニングの強化をはじめ、英検、TOEFLを含めた資格試験対策なども企画中である。



チャリティ・デー

～東日本大震災に思いを寄せて～
笑顔に 夢をのせて」



【大阪音楽大学付属音楽院】河合摂子先生と、子どもたちが一緒に楽しくリズム遊び。体を使うボディパーカッションで「おもちゃのチャチャチャ」に挑戦しました。



【小学校ゲームコーナー】第2体育館で行われた小学校父母の会のゲームは、毎年子どもたちが楽しみにしています。小学校5・6年生がお手伝いをしてくれました。



【箕面市青少年吹奏楽団】2012年関西支部代表として全日本吹奏楽コンクールに出場し、多岐にわたり大活躍中。指揮者体験コーナーでは、園児・児童が「夢をかなえてドラえもん」の指揮に挑戦しました。



【滝の道ゆずるくん】毎年、チャリティに来校してくれる箕面市マスコットキャラクター「滝の道ゆずる」君。子どもたちとの写真撮影や募金活動に大活躍です。



【クラフト・コーナー】第2体育館では、幼稚園父母の会が、子どもたちのために、楽しいクラフト制作を準備してくださいました。

10月26日(土)アサンプション・チャリティ・デーが開催されました。

愛の精神に基づき恵まれない隣人に心を向け、すべての人の幸せのために幼稚園、小学校、中学校、高等学校の園児児童生徒、保護者同窓会、友の会、教職員が共に働く一日です。今年は、台風接近のため開催が危ぶまれましたが、校外からもたくさんの方々にお手伝いいただき、アサンプション・ファミリーの温かい雰囲気を感じた一日でした。

昨年までと内容を一新し、第一体育館では「チャリティ・イベント」が行われました。最初のプログラムは大阪音楽大学付属音楽院による幼児・小学生向けイベント「音楽にのせて、みんなで楽しくリズム遊び！」。幼児音楽クラス担当の河合摂子先生と、子どもたちが一緒に楽しくリズム遊びをしました。続いては、今年度より結成された弦楽アンサンブル「Assumption Strings」と合唱団「Assumption Chorus」の発表です。幼稚園児・小学生・中学生・高校生・卒業生・保護者の有志が、限られた時間でこの日のために練習をしてきました。演奏後には、出演者一人ひとりに大きな拍手が送られ、合唱団に参加された保護

者の方からは、「楽しかったです！」との感想が聞かれました。

イベントの最後は、箕面市青少年吹奏楽団の迫力あるステージで、子どもから大人までが楽しめる演奏が披露されました。

父母の会・同窓会・友の会ではこの日のために準備された手芸品を販売。丁寧に仕上げられた作品には、チャリティへの思いが込められています。

小学生・高学年、中学生、高校生は前日の準備から、当日販売まで大活躍！今年度の標語どおり、笑顔いっぱいそれぞれの役割を果たしました。この一日の働きが、世界のどこかで、日本のどこかで人の役に立つのです。来場者からの「ありがとう！」の言葉に励まされ、一人ひとりができることを誠実に取り組む姿は、輝いています。次年度は、学院創立60周年を迎えます。アサンプション・ファミリーの絆を深め、より一層学院を発展させていきたいと考えています。

2013年度チャリティ寄附先[抜粋]

送り先
フィリピン姉妹校への支援
台風によるフィリピン災害地域への支援
北摂障がい者福祉施設(2ヶ所)
社会福祉協議会(箕面・豊中・池田・吹田)
各ボランティア支援団体(8ヶ所)
釜ヶ崎への支援(ふるさとの家他)
東日本大震災への支援(大阪教区ENGOプロジェクト)

合計400万円



アサンプション・

「アサンプション きずな プロジェクト」
「広げよう みんなの」



【チャリティ・コンサート】聖堂では、小・中高のハンドベル・コーラス部・聖歌隊の演奏が行われました。



【合唱団】幼稚園児、小学生、コーラス部、聖歌隊、卒業生、そして保護者の方による「Assumption Choir(クワイア)」は、東北に向けて熱い歌声を届けました。



【弦楽アンサンブル】本校在籍の小学生・中学生と、卒業生の有志により結成された「Assumption Strings」。心をひとつに「パッヘルベルのカノン」と「私のお気に入り」を演奏しました。



【模擬店】中高父母の会が準備されたポップコーンや綿菓子など、食品販売は高校生が担当しました。



【手芸品・寄贈品販売】今年は、各校国の父母の会学年委員の方や、有志で出品いただいた手芸品・寄贈品が販売されました。

シスター 藤井の言葉

チャリティ・デーで
絆を深め
共に幸せに、
共に愛に生きる



『チャリティ・デー』は約40年前、シスターが本学院の教育理念の根底に流れる「真の愛を生きよう」をみんなの心に染み込ませたいと、中高生に呼びかけで行われた「クリスマス・セー

の自立を目指した活動等に用いられてきました。

ルス」がはじまりです。当初は手作りのクリスマスカードや、家から持ち寄った品物などを校内でひっそりと販売し、貧しい人々の救済に充てていました

以来、『チャリティ・デー』が中止されることなく続けてこられたのは、本学院の創立者マリ・ウージェニーが願われた「全世界を包み込むような温かくて広い、大きな、優しい心を育てていく」ための行事だったからです。

が、それを知った保護者たちから「このような素晴らしい活動に協力させてほしい」という声が上がりがやがてそれが大きな輪となり、1977年から幼稚園や小学校、友の会(卒業生の母の会)、同窓会にも広がって現在の『チャリティ・デー』となりました。

現在、学院では「チャリティ活動委員会」を設置し、早期から入念な計画、準備を行っています。一つひとつの仕事は尊く、そこには愛が湧き出てくる「絆」があり、常に「与えるばかりではなく、共に幸せになろう、共に愛を生きよう」という、グローバルな視野で取り組む気持ち大切にしています。

そして、その収益金は、教育、社会福祉活動等を通して、貧困の中で暮らす世界中の子供達の健やかな成長、家族と地域

♪世界みんな隣人さ
倒れるものは助けながら
主に向かう心の愛は一つ、
みんなのもの♪



「時の初め」

学院長／Sr.宮本 恵子



「時の初め」というタイトルの絵と出会ったのは東日本大震災のちょうど一年後。友人の個展で

もつとも記憶に残ったその絵は、山あいから水が流れ、静かに広がっていき、ゆったりと私に迫って来るような時間を感じさせるものでした。私は眺めていくうちに、時間の流れを越えた「一瞬の時」を持つ、エネルギーが「初め」であり「永遠」であり、次の「初め」を生んでいく……そんな思索、黙想に深く沈められたことを思い出します。

東日本大震災から2年9カ月、フィリピン台風による大災害から3ヶ月経ちます。もうすぐ60周年を迎える聖母被昇天学院の歴史を振り返ってみると、日本の聖母被昇天アサンプションとフィリピンのアサンプションとのつながりの深さを再確認し、新たに信

仰、希望、喜びを与えられたことに気づかされました。

第2次世界大戦後、まだ敗戦の痛手から立ち直っていない時期に、フィリピンのアサンプションからの全面的援助によって、日本の聖母被昇天学院が設立されたことをご存知でしょうか？

大戦中、日本のカトリック教会大司教がフィリピンを訪れ、マニラの聖母被昇天修道会に滞在された折、両国間の厳しい関係にもかかわらず、温かく迎えられたことや、アサンプションの学校にみながっていた信仰と喜びの精神にも心を打たれ、日本にも修道院を設立してほしいと願われました。そして、聖母被昇天修道会パリ本部を通して1952年、シスターたちが5人派遣され、1954年箕面の地に学院の設立が果たされたわけです。同時にフィリピンの

アサンプションの卒業生たちも、戦争で家族や友人を失ったフィリピンのシスターたちや生徒たちが多数おられたにもかかわらず来日し、日本の子どもたちのためにと心を砕いて援助してくださったのです。まさに「敵をも愛しなさい」というキリストの無条件の愛です。

この最初の愛の出来事からもうすぐ60年を迎えます。その間、日本は経済的に成長し、学院ではチャリティ・デーの収益金からフィリピンの貧しい子どもたちのために援助できるほどになり、生徒たちの交流を重ねてその援助は今でも続いています。

次に感謝と感動がよみがえってくるのは、あの東日本大震災の後、フィリピンのアサンプションから日本の人々のためにと多額の貴重な援助金が送られてきた

ことです。

昨年10月には、大自然の脅威を思い知らされる台風がフィリピンを襲いましたが、あの東日本大震災の後のように世界中から援助が届けられています。本学院もフィリピンへの緊急援助を送るよう準備をしています。何よりも中高生が自発的に瞬時に学校で募金活動を行ったことに感動しました。これは集まった金額以上の「愛の出来事」です。

人類が国を越えて、様々な種類の境界線を突き抜けて苦しむ人々に思いを馳せ、何かしたい、助けになりたいと思う心は最初の愛をすでに頂いているからではないでしょうか。聖書の言葉にあるようにまず、神様が先に私たち一人ひとりを無条件に愛（苦しみをも共にする）して下さっているからだと思います。

「神は、その独り子をお与えになつたほどに、世を愛された」ヨハネ3：16

フィリピンのアサンプションとの絆もこの「最初の愛」によって導かれていることが分かります。時間の流れの中で「最初の愛」は波のようにゆっくり繰り返しながら人々を通して伝えられていく……あの「時の初め」の絵で感じたように、学院の歴史を振り返り記憶の一部を掘り起こして眺めてみるといろいろな気づきがありました。それは恵みです。みなさんもご自分の歴史を神様の愛のまなざしで眺めて御覧になつてはどうでしょうか？

山あり谷あり沼あり、見える出来事を通して見えない大切なものに気付く、信頼と希望に導かれた初めの一步を踏み出すことができるでしょう。



学校法人
聖母被昇天学院

〒562-8543 大阪府箕面市如意谷1-13-23
Tel.072-721-7680 (代)
<http://www.assumption.ed.jp>